

## コーティングについて第一回 被膜が酸化するってどういうこと？

コーティングの被膜が「酸化する」って。被膜が酸化をする。酸化とは錆びること。コーティング被膜が錆釘の様にカサカサになり剥げてしまうこんな事を言います。剥げてしまえば塗装表面にはコーティング被膜が無くなってしまふ、そのコーティングは塗装の保護は出来なくなります。塗装表面が裸になりますから風邪をひいたり……？肌荒れをしたり砂、泥、酸性雨、SPMなど酸化成分に曝されて貧しの塗装表面は次第に悪い方へ変わっていき、カサカサからガサガサへ変化していきます。カサカサ・ガサガサは感觸、目視では判断は付かないものです。見分けは塗装表面の汚れの付き方等で日常の習慣的な見分けをしていると思います。自動車の塗装は過酷な条件下に置かれる事の厳しさを考えるとき。なぜ塗料を保護するものが必要なのか塗装表面を保護する理由が見えてくるのです。酸化した塗装表面は汚れが付き水拭きでは落ちない、汚れが塗装表面を酸化し始めた証です。コーティングの酸化被膜はカサカサになって全てが剥がれるのではなく一部は酸化物として汚れと共に蓄積され、やがては塗装表面の光沢を失いその塗装全体が汚れと酸化物で覆われてしまします。コーティング被膜が酸化をし表面には酸化物が汚れとして塗装表面に残り美観を損ね酸化促進をするのです。

ワックス並びにコーティング被膜が酸化をするのは、その成分に起因するもので、酸化を避けるためには成分の構成を根本的に変えなければなりません。しかしながら、国内のワックスメーカーは長期持続型のコーティングには否定的でありカーディテリング業界向けに開発はしてはくれません。そうした状況が続いてきました。

コーティング方法の元々は「ワックスを自分で掛けるを掛けてあげる」から始まったことであるようだ。次第にお客様の希望で競争原理に乗り他より良い仕上がり求めた結果お互いが奔走し技術が向上したものと思う。ただワックスを掛けるだけではなく水垢を取り、小キズを取りトップコートよりもその下に時間と技術を発揮する奇妙な構図になってしまった業界でもあろうと思います。トップコートの下に時間と技術を掛けることを否定するのではなく車両に応じ適所に必要性が高まるものとは考えています。

「カーディテリング」つまりここで言うみがき屋さんに関しては日本特有の発展をしてきた歴史の短な業界であり、今後の業界の発展はコーティングとは何であるのか何のためにするのかを理解して戴き業界の発展と進歩に努力をして行きたいとペンを取った次第です。これから短編で製品を作る立場から色々と勉強をさせて戴く所存でおります。